

和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科博士前期課程の理念・目的と目標

1) 教育理念・目的

広い視野と高邁な倫理観に立って、人間の尊厳を重視する保健看護学の教育・研究を進め、保健・医療・介護・福祉に対するニーズに先駆的に対応し、健康に関係する様々な分野相互の連携の重要性が理解できる資質の高い保健看護職者と健康関連専門職者を育成する。

また、本学保健看護学部の使命である「地域に根ざした保健看護学の考究」の推進者として、地域の人々の健康の保持増進、疾病・障害に伴う諸問題を含め、倫理的・科学的な研究に対する意欲をもち、自律して質の高い計画を立案・実行し、社会のニーズに柔軟かつ豊かに対処することができる健康づくりに関わる専門職業人としての能力の向上をめざす。

2) 教育目標

本学大学院保健看護学研究科博士前期課程においては、専門性を軸とした領域をおきながらも、それらがカリキュラム上、また研究上でも「健康」をキーワードとして有機的に相互に影響し合い、柔軟に連携していく学際領域を構築することを目標としている。

- (1) 地域の人々が共に自立した生活が営めるように、解決すべき課題に対し地域の保健医療機関と協力して取り組み、地域健康文化の形成と発展に貢献できる能力を育成する。
- (2) 各看護専門分野において、質の高い看護を目指し、他の医療専門職者と相互に連携を図り、それぞれの職務を果たし、チーム医療を推進し、高度な専門職業人として協働できる能力を育成する。
- (3) 保健看護分野を基礎から支える研究に取り組み、その学問の発展に貢献できる高度な専門的知見の集積や技術・開発を推進できる人材を育成する。
- (4) 社会的な健康問題に関する対応に積極的に参画し、教育や政策の場でも新たに改革する者として、行動を起こせる能力を育成する。

3) 育成する具体的人材像

本学大学院保健看護学研究科博士前期課程における教育・研究の中では、単に専門的知識と技術を修得するだけでなく、社会との関わりを基盤として、保健・医療・福祉の将来のあり方を見通せる広い視野・洞察力・実践力と、疾病から健康にいたる科学的知識に基づく高度な統率力をもった健康づくりに関わる専門職業人を育成することを研究科全体として目指す。

(1) 人々の健康を促進する地域文化への貢献

本県の少子高齢化が年々顕著になってきているなか、地域の人々に対する総合的できめ細やかな健康生活の支援を進めていく必要がある。本学大学院保健看護学研究科は本学の大学院として、県民の健康と福祉に対するニーズを踏まえ、地域の人々の健康の質の向上を促すための健康文化づくりに寄

与する人材の育成に貢献していく使命をもっている。

本学大学院保健看護学研究科博士前期課程では各専門領域の特論や演習の科目において、地域社会の健康を促進する文化の発展にリーダーシップを発揮し、また、高度な専門的知識・技術を駆使し、個人のみならずグループや地域全体の健康状態の保持増進のために貢献できる保健師・看護師ならびに管理栄養士や理学療法士、作業療法士、健康運動指導士などの人材を育成する。

(2) 総合的に保健・医療・福祉をコーディネートする保健看護職者の育成

医療の視点が施設中心のケア体制から地域における包括的・継続的な在宅ケア体制へと変革が進められている時代にあって、保健看護職者は施設を含めた地域全体の保健・医療・福祉を総合的にコーディネートしていく能力が求められる。

本学大学院保健看護学研究科博士前期課程では『生活・地域保健学領域』における地域看護学特論などの学修を通じて、有効な実務の構築に関する分析と研究方法を開発し、それを実行することのできる行政施策能力をもった保健看護職者を育成する。

(3) 高度な専門的知識・技術を有する保健看護職者の育成

医療提供体制が改革されていくなか、健康が人々の生活に不可欠なものであることを自覚し、科学的知識、研究的思考能力、かつ倫理的感受性をもって患者の自己決定を支援できる自律した保健看護職者が求められる。

本学大学院保健看護学研究科博士前期課程では、人々の抱えている健康問題に配慮し、医療変革期における質の高い健康科学の開発・改革を試み、それを積極的に実施することのできる優れた保健看護職者を育成する。また、教育や政策の場でも根拠に基づき変化する状況に適切に対応できる能力並びに医療の質と実務の保証に関して組織的に対応できる能力をもった人材を育成する。